

幼保連携型認定こども園 **YMCA 保育園 11 月えんだより**

11 月の聖句 『わたしが あなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。』

<ヨハネによる福音書 第 15 章 12 節>

秋が深まり、木々が色づく季節となりました。天気の良い日が続く、園外遊びも身体を十分に動かすことができる日々です。子ども達の声が、園の内外に響く空間は改めて心が温まります。

さて、昨年、東京都内の学校調査で、「よい子を装う小学生」の報告があります。表面的には反発せず先生の言うことを聞いているが、内心はストレスや不安をため込んでしまっている子が増えたことの実態です。子ども達の中には、理解できないことを素直に「わからない」と言えず、他者から馬鹿にされることを恐れて、自分の発言がどのように受け止められているかに思慮をめぐらしている子がいます。又「～しなさい。」と言われ続けると「～する○○ちゃんは好き」という条件付きの愛を受けて育てられるケースも多く、そうしますと子どもにとってその愛は、「もしできなかつたら嫌われてしまう」という、見捨てられる不安をもたらす、自己肯定感を低下させてしまい、それを満たすために、自分より弱そうな人を見つけていじめ、自分がいじめられないように過剰に自己防衛するのだと分析されています。

今月の聖句にある「愛する」という言葉をきいて、どのようなイメージをもたれるでしょうか？温かさ、信じる、大切に思う等、思い浮かべるかもしれませんが、更に「無償の愛」と聞くと、全てを受け容れ、見返りを求めない思いとか、相手の立場から考えて分かれようと努めること、赦しあうことと思う方もいるでしょう。大人から子どもへの愛は、この無償の愛で成立していますが、前述の報告は、「子どもが、大人へ無償の愛を注いでいる」と記されています。子ども達は、対立することや意に沿わない出来事に遭っても、必死になって相手のことも考えて、赦し合い、修復しようと努めます。時には傷つき、涙する姿に、大人の側が待てずに、不安と怒りが高まり、一方からの視点で赦せず、相手を追放することさえ求めることがあると聞きます。「子どもから教えられる」と耳にしますが、時間を経て振り返ると、子ども達の姿に、大人が子どもの愛に気づかされるのです。

聖句の愛は、自己譲渡の愛、相手を生かす愛です。簡単なものではありません。嫌われ者の友となり、病に苦しむ人々、社会から見捨てられた人達に救いの手をさし伸べて、友なき者の友となることを言います。愛することは赦すこと、と言われたマザーテレサの言葉を心に留めたいと思います。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15 章 13 節>

11 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 秋の実りを喜んで味わう。</li> <li>* 保育者の祈る姿を通して、思いを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 秋の実りに感謝して味わう。</li> <li>* いろいろな人の働きを心にとめる。</li> <li>* 気持ちや考えを伝えあい、分かち合いながら友達と過ごす。</li> </ul>
讃美歌	あなたの平和の 聖歌集増補版 1	